

# 第4学年 国語科学習指導案

日時 平成21年5月7日(木) 5校時

児童 第4学年 男17名 女7名 計24名

指導者 教諭 中軽米 利夫

付きたい読解力	A 文章を段落ごとに読む力。〈音読〉
	B 段落や段落相互の関係に気をつけて読む力〈説明的な文章の解釈〉
	C 読み取って感じたことや考えたことを表現する力〈自分の考えの形成及び交流〉

1 単元名 段落のつながりに気をつけて読もう (光村4年上)  
教材名 「かむ」ことの力

## 2 単元について

### (1) 単元の位置づけ

【低学年の説明文】 順序を追って、正確に読む。



【中学年の説明文】 「ありの行列」・「すがたをかえる大豆」  
・段落を知る。  
・接続語に目をつける。  
・一つの段落ごとにそれぞれ一つの事柄が書かれている。  
『「かむ」ことの力」・「アップとルーズで伝える」  
・段落と段落がつながって、さらに大きなまとまりを作る。  
・文章全体は、大きな意味のまとまりをいくつか組み立てたものである。

↓  
【高学年の説明文】 要旨をとらえ、自分の考えをもつ。

### (2) 教材について

第3学年及び第4学年の説明的文章の読解力として、最も身に付けさせたいことは、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え正しく読むこと。」である。そのためには、実際に、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しをつけたりして、話の内容を整理する学習が大切となる。また、その際には接続語、文末の語句などの言葉をおさえることも、考える上で大事なこととなる。

本教材は、「はじめ」「中」「終わり」という説明文の典型的な文章構成をもっている。また、段落のまとまりをとらえるのに大切な接続語や指示語・文末表現も文章中に有効に使われており、段落相互の関係をとらえやすい構造になっている。また、「かむ」ということは、児童にとって身近な動作であるが、そのしくみなどを強く意識している児童は少ない。新しい角度から自分自身について考えることのできる本教材は、知識欲の深まってくる時期の児童にふさわしい話題であると考えられる。

### (3) 児童について

児童は、1～2年生の説明文学習で、「順序を追って、正確に読む。」こと、3年生の説明文「ありの行列」・「すがたをかえる大豆」を通して「段落を知る。」「接続語に目をつける。」「一つの段落ごとにそれぞれ一つの事柄が書かれている。」ということを経験してきた。

NRTの結果を見ると「読むこと」の領域が他に比べて落ちており、特に指示語の指し示している内容を理解できない誤りが多い。また、段落ごとに中心となる内容をおさえて読むことも不十分である。

4年生では、物語文「三つのお願い」の単元で、話の展開や登場人物の気持ちを読み取り、意欲的に音読の工夫を行ってきた。書く活動については、三つのお願いについて、いつ、だれが、どこで、どんなお願いをしたのかをサイドラインを引いたり、読み取り図などを作ったりして活動してきた。しかし、書くスピードや読み取りには個人差があり、課題を解決するための手がかりとなる言葉を探したり、根拠をあげて発表したりする力は、まだ十分に育っていない。

### (4) 指導について

本教材文を学習することで、児童に主体的に文章を読む力をつけさせたい。そのために、各段落の要点をつかませ、段落相互のつながりを考えさせながら全体をとらえさせる。また、最後に「はじめ・中・終わり」という文章全体の組み立てを使って作文を書くことで活用する力をつけさせたい。

本研究に関しては、単元全体や本時で身につけたい力を明らかにしながら授業を展開していく。また、初発の感想や教科書へのサイドライン、ワークシートへの書き込み、作文等の書く活動を通して確かに読み取る力をつけていきたい。

### 3. 単元の目標

- (1) 「かむ」ことに興味を持つとともに、自分の体や生活について見つめ直そうとする。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 段落と段落のつながりを考えながら、文章中のいくつかの大きなまとまりをとらえることができる。  
また、大きなまとまりごとの内容をとらえつつ、まとまり相互の関係を理解することができる。  
(読むこと イ)
- (3) 「はじめ・中・終わり」といった文章中のまとまりの、それぞれの役割をとらえることができる。  
(読むこと オ)
- (4) 指示語や接続語の役割を理解しながら、段落相互のつながりをつかんでいる。  
(言語事項)

### 4 単元の指導計画（9時間）

- 〈一次 つかむ〉 1 ・教材文を読み、初発の感想を書く。  
・新出漢字の読み書きと難語句を調べる。
- 〈二次 見通す〉 『『かむ』ことの力』を読んで初めて思ったことや大切だと思ったことを発表し、学習の見通しを持つ。  
2 ・教材文を読んで初めて知ったことや疑問点等を交流する。  
・学習計画を立てる。
- 〈三次 深める〉 段落のつながりを考えながら『『かむ』ことの力』を読む。  
3～5 形式段落ごとに要点をまとめる。  
6 ・段落ごとのまとまりを見つけ四つに分ける。・・・(本時)
- 〈四次 まとめる〉 7 ・「はじめ・中・終わり」という文章構成を知る。
- 〈五次 広げる〉 8～9 『『かむ』ことの力』を学んだことをもとに作文を書く。

- (1) 目 標 段落のつながりをとらえ、四つのまとまりを理解することができる。

本時でつきたい読解力

B 内容や接続語の役割から、段落のつながりをとらえ、四つのまとまりに分ける力。

#### (2) 展 開

	学習活動（○主発問 ・学習内容）	指導上の留意点・(評価方法)
つかむ 10分	1 学習課題を確認し、見通しをもつ。  書かれている内容ごとに文章を分けよう。	・前時を想起させながら課題を表示する。  (観察)
見通す 10分	2 四つに分けるための視点をつかむ。 ○文章全体を四つに分けるために気をつけることは何ですか。 ・問題提起の段落や接続語、指示語に注意して分けさせる。 ・段落の内容をもとに段落のつながりを考えさせる。	○書かれている内容の大きな二つのまとまりに気づかせ、文章全体を四つに分けさせる。 ・問題提起の段落を確認する。 ・指示語の内容を確認する。 ・接続語に注目させる。  (観察)

ふかめる 20分	<p>3 各自視点に沿って読み進め、全体を四つに分ける。(一人学び)</p> <p>○四つに分ける手がかりとなる言葉を考えて分けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認した手がかりを参考に分けさせる。</li> </ul> <p>4 各自まとめたことをもとに交流し合う。(学び合い)</p> <p>○四つに分けたことを話し合っまとめてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班毎に話し合いまとめさせる。</li> <li>・全体で話し合いまとめさせる。</li> </ul>	<p>○全体を内容や接続語等をもとに考え、四つに分けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までにまとめた要点や接続語・指示語などをワークシート上で操作しながら考えさせる。(ワークシート・観察)</li> </ul> <p>○理由を付けながら、四つのまとまりを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班毎に学習リーダーを中心に話し合わせる。</li> <li>・班毎に話し合ったことを発表し交流する。</li> <li>・指示語や接続語を確認し、板書する。(観察)</li> </ul>
まとめる 5分	<p>5 つかんだことをまとめる。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<p>○板書したことをもとに、四つに分かれたことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに結論を述べ、その後に説明をしている書き方に気づかせる。(観察・ワークシート)</li> </ul>

(3) 具体的評価規準

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
問題提起の段落や指示語・接続語を見つけ、段落のつながりに気をつけながら文章全体を四つのまとまりに分けることができる。	問題提起の段落や指示語・接続語を見つけ、文章全体を四つのまとまりに分けることができる。	問題提起の段落や指示語・接続語を参考にして分けることに気づかせる。

(5) 板書

「かむ」こと力の 金田 湧

書かれている内ようごとに文章をまとめよう。

① よくかむと、どんなよいことがあるのか。

② 食べ物を飲み込みやすくする。

③ 歯、骨、関節、筋肉が強くなる。

④ だえきが出て、消化を助け虫歯を防ぐ。

ほかにあります

⑤ よくかむと、ほかによいことがあります。

まず

⑥ 脳を通して、食べ物の量を調整する。

つぎに

⑦ 体全体の成長や活動に大切である。

さらに

⑧ 脳の働きが活発になる。

このように

⑨ かむことは体全体にかかわる大切な働きである。人間の体は、どこをとってもたがいにつながり合っている。

一「かむ」ことの方 教材分析表

意味 段落	形式 段落	キー ワード	要点	言語事項 (難語句)	構成
1	①	かむ	かむってどういうことか。また、 どんないいことがあるか。	なのでしょう また あるでしょう	「初め」 問いの文 紹介
2	②	飲み込み やすく	かむことは、脳とつながって いて、かめばかむほど、飲み込み やすくなる。	また こうすること (食道)	「中1」
	③	歯も骨も 関節も強 くなる	かめばかむほど歯やあごの骨、関 節、口の周りの筋肉などが強くな る。	これら つまり (そしやく)	説明1 口のまわ りのこと
	④	歯の健康 (むし歯)	かめばかむほどだえきがたくさ ん出てむし歯になるのを防ぐ働 きをする。	また (消化)	
	⑤	ほかにも	かめばかむほどいいことはほか にもある。	ほかにもあり ます	
	⑥	食べ物の 量を調整	脳はかむことを通して胃や腸が ちよどいい具合に働くように 食べ物の量を調整している。	まず	
3	⑦	体全体の 成長や活 動	歯全体でよくかむことは体全体 の成長や活動にとっても大切で ある。	次に このとき また ですから	「中2」 説明2 脳や体の こと
	⑧	脳の働き	よくかむことで、脳の働きが活発 になる。	さらに	
4	⑨	体全体に かかわる 大切な働 き	かむことは、体全体に関わる大切 な働きである。人間の体は、どこ をとっても、互いにかかわり合っ ている。	このように	「終わり」 答えの文 まとめ

二 日常の学校生活における言語活動

- ① 物語や詩を読み、感想を交流し合うこと。
- ② 「はじめ、中、終わり」という、文章構成を使って文章を書くこと。
- ③ 紹介したい本を取り上げて説明すること。